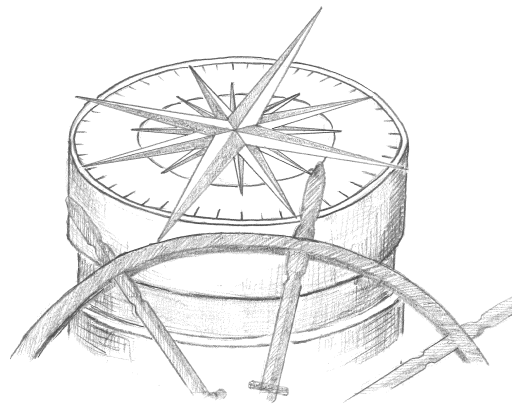


令和元年度
鹿児島学習定着度調査
始良・伊佐地区結果分析

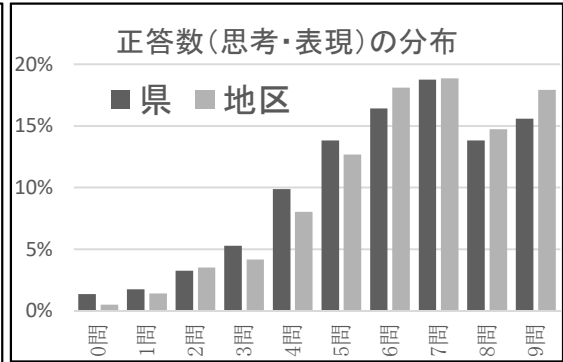
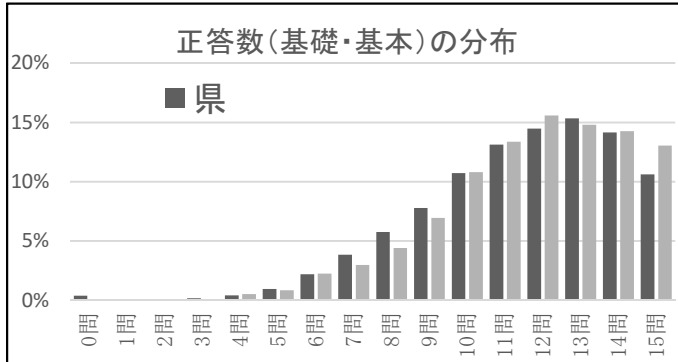
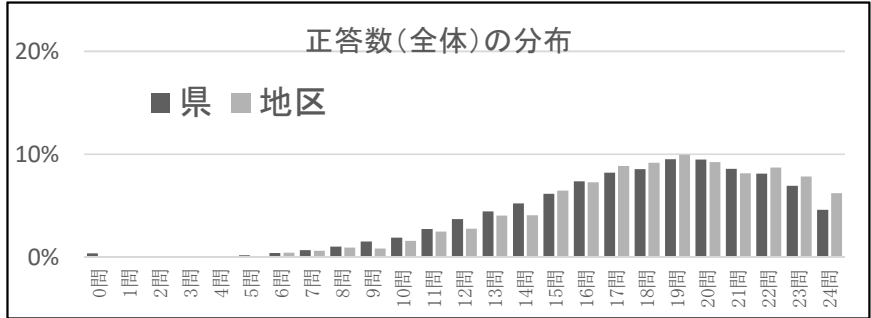


始良・伊佐教育事務所

小学校5年 国語

	県	地区	県との差
基礎・基本	76.6	78.0	1.4
思考・表現	68.4	70.8	2.4
全体	73.6	75.3	1.7

領域名	県	地区	県との差
話す・聞く	62.9	65.5	2.6
書く	49.6	52.3	2.7
読む	76.6	78.2	1.6
伝国	79.5	80.9	1.4



【小問ごとの通過率等】

大問番号	[1]					[2]					[3]			[4]										
	-					-					-			-										
中間番号	-					-					-			-										
小問番号	ア	イ	ウ	エ	2	1	2	1	2				①	②	③	①	②	1	2①	2②				
県通過率	94.9%	94.2%	53.1%	60.0%	78.0%	92.3%	55.9%	89.2%	66.0%	92.1%	93.1%	85.7%	69.6%	65.5%	59.8%	92.3%	79.1%	91.7%	78.3%	55.5%	70.4%	66.2%	44.4%	38.0%
地区通過率	96.0%	95.2%	54.6%	63.1%	78.8%	92.3%	59.0%	90.6%	67.9%	92.7%	93.8%	87.2%	72.2%	64.9%	61.4%	93.5%	81.6%	93.7%	80.5%	57.9%	73.0%	69.1%	47.7%	40.2%
地区誤答率	3.9%	4.7%	39.6%	33.5%	21.1%	6.7%	38.7%	9.3%	32.0%	7.0%	5.8%	12.4%	27.1%	35.0%	38.2%	4.7%	16.5%	4.4%	18.9%	41.9%	26.8%	27.3%	49.0%	54.7%
地区無答率	0.1%	0.1%	5.8%	3.3%	0.1%	1.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.8%	0.1%	0.4%	1.7%	1.9%	1.9%	0.7%	0.1%	0.2%	3.6%	3.3%	5.1%

【過去問との関連】

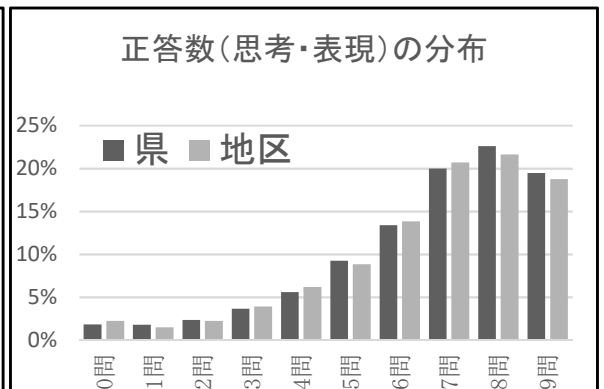
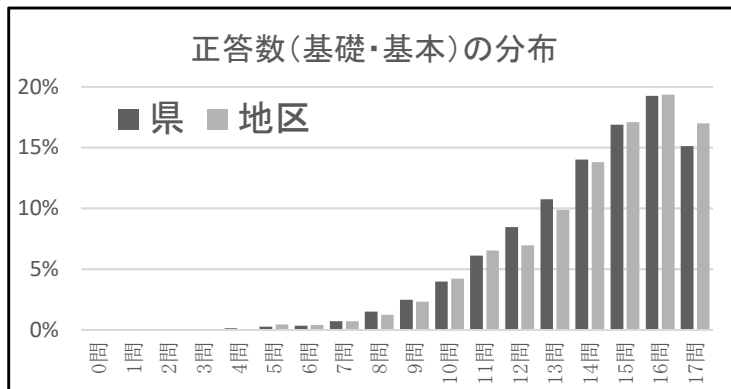
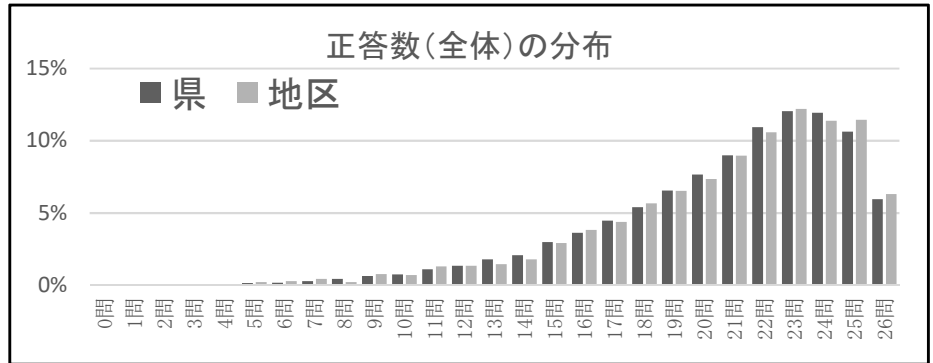
- [1] 一 2 はがきの書き方 (H30は手紙の書き方)
- [1] 二 ローマ字 1 (H28, 29, 30類似) 2 促音の書き (H30) (H28, 30類似)
- [2] 一 2 慣用句 (H29, 30類似)
- [2] 二 敬語 (H29) (H28, 30類似)
- [2] 三 国語辞典の使い方 (H28, 29, 30類似)
- [2] 四 語句の係り方 (主語・述語の関係) (H28, 29, 30類似)
- [2] 五 語句と語句の関係 (H28, 29, 30類似)
- [4] 三 条件作文 (2学期重点問題)

- 「基礎・基本」については、「国語辞典の使い方」や「主語と述語の関係」に関する理解に大きな成果が見られた。また、ローマ字を正しく読んだり、書いたりすることについての通過率も、昨年度より大きく伸びたものの、書くことについては、6割弱であり、今後も拗音、長音、促音等の表記についての指導が必要である。
- 「思考・表現」については、「話し手の意図を捉えるために、効果的な質問をしながら聞くこと」や「グラフを用いながら事実と意見を区別しながら書くこと」等に課題がある。
- 今後の取組として、「話すこと・聞くこと」において、質問の仕方について理解した上で、言語活動において、どのような意図で何と質問するのかを考えさせたり、他者の質問が話し合いの中で、どのような関わりがあるのかを評価させたりする場面を設定することが考えられる。また、「読むこと」の指導の際、図表と文章の関連付ける活動を設定したり、図表を用いることの効果について考えさせたりすることが必要である。

中学校1年 国語

	県	地区	県との差
基礎・基本	82.8	83.2	0.4
思考・表現	73.6	73.0	-0.6
全体	79.6	79.7	0.1

領域名	県	地区	県との差
話す・聞く	75.0	74.7	-0.3
書く	84.4	83.6	-0.8
読む	73.1	73.4	0.3
伝国	84.9	85.1	0.2



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]						[2]			[3]		[4]			[5]											
中間番号	-						-			-		-			-											
小問番号	1	2	3				1	2		1	2	3	①	②		1	2①	2②	①	②	①	②	③			
県通過率	99.3%	98.0%	87.4%	83.8%	88.2%	73.4%	83.4%	83.8%	67.9%	72.0%	81.4%	98.4%	84.1%	57.2%	90.3%	77.6%	95.2%	67.9%	69.5%	50.9%	66.1%	60.1%	81.3%	80.1%	91.8%	81.4%
地区通過率	99.5%	98.2%	87.0%	83.3%	88.8%	72.6%	84.0%	85.4%	68.1%	72.1%	80.6%	98.3%	85.4%	57.7%	88.8%	77.6%	95.6%	70.0%	70.0%	49.7%	67.9%	59.3%	80.6%	77.3%	90.7%	82.8%
地区誤答率	0.4%	1.7%	10.9%	16.7%	9.4%	27.4%	16.0%	14.6%	31.8%	27.9%	17.9%	1.5%	14.4%	39.9%	8.8%	22.2%	4.0%	29.5%	23.9%	44.2%	31.6%	36.3%	14.8%	18.0%	4.9%	12.2%
地区無答率	0.1%	0.1%	2.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	1.5%	0.2%	0.2%	2.4%	2.4%	0.2%	0.4%	0.5%	6.1%	6.1%	0.5%	4.4%	4.6%	4.6%	4.4%	4.9%

【過去問との関連について】

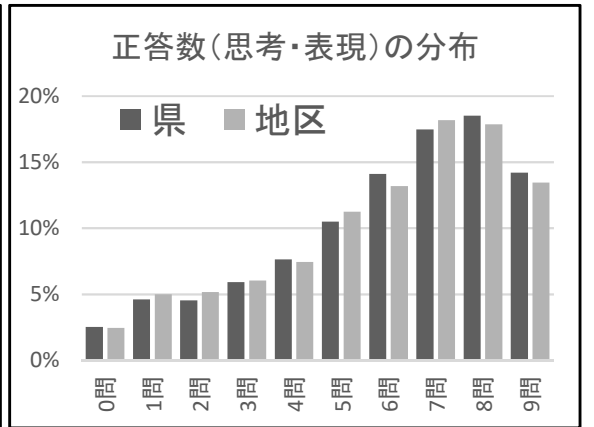
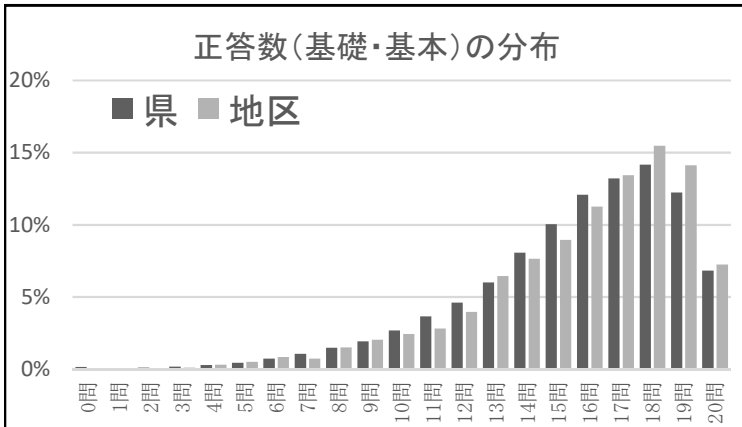
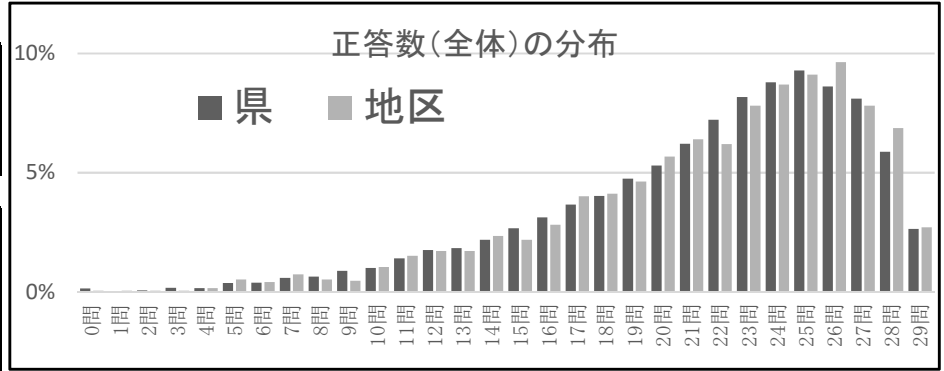
- [1] 一 3 漢字の書取「反省」(H30「省く」で出題)
- [1] 四文節分け(H28, 29, 30類似)
- [1] 五語句と語句の関係(H29, 30類似)
- [2] 二 1 歴史的仮名遣い(H27)
- [2] 二 3 古典における主語(H28類似)

- 「基礎・基本」については、言語事項や古文に関する設問については、通過率が8割を越えている。しかしながら、例年出題されている文節分けや現代仮名遣いに直す設問については、県の平均を下回っている。また、「読むこと」においては、叙述を基に内容を正確に捉える設問に課題がある。
- 「思考・表現」については、10問/12問中が県平均通過率を下回った。「話すこと・聞くこと」においては、「目的や状況に応じて工夫して表現する」設問において、また、「読むこと」においては、内容を正確に読み取った上で、自分の考えをまとめる設問に課題がある。
- 今後の取組としては、「話すこと・聞くこと」において、相手意識や目的意識を言語化させたり、文章を読み取ったり文章と図表と関連付けたりする活動において、自分の考えを書く活動を積み上げていくことが必要である。

中学校2年 国語

	県	地区	県との差
基礎・基本	78.1	78.6	0.5
思考・表現	66.4	65.5	-0.9
全体	74.5	74.6	0.1

領域名	県	地区	県との差
話す・聞く	74.9	73.6	-1.3
書く	75.4	74.8	-0.6
読む	71.0	70.8	-0.2
伝国	76.7	77.4	0.7



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]										[2]				[3]			[4]			[5]								
	-				二	三	四	五	六	-	二	三	-	二	三	-	二	三	-	二	三								
中間番号					1	2			1	2			1	2			1	2	3										
小問番号	1	2	3	4	1	2			1	2			1	2			1	2	3										
県通過率	62.9%	84.6%	71.4%	84.8%	50.6%	69.9%	76.2%	67.1%	72.6%	86.1%	71.5%	91.6%	83.5%	87.4%	92.1%	95.3%	82.4%	45.8%	76.0%	85.1%	79.7%	82.3%	49.6%	56.8%	66.2%	61.4%	79.9%	78.1%	68.2%
地区通過率	66.5%	86.8%	69.7%	85.2%	49.4%	70.4%	75.6%	69.0%	73.5%	86.7%	72.4%	92.0%	87.0%	88.5%	92.6%	94.7%	82.8%	43.7%	73.1%	83.9%	80.2%	81.8%	47.5%	57.1%	67.2%	60.9%	78.4%	79.1%	67.0%
地区誤答率	29.6%	13.2%	28.0%	10.8%	50.3%	28.5%	24.3%	30.9%	26.3%	12.9%	27.2%	7.5%	12.7%	9.4%	5.7%	5.0%	17.0%	47.4%	17.9%	10.4%	19.3%	17.5%	37.7%	28.1%	31.6%	37.5%	12.4%	11.7%	23.5%
地区無答率	3.9%	0.1%	2.3%	4.0%	0.3%	1.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.5%	0.5%	0.5%	0.3%	2.1%	1.7%	0.3%	0.3%	9.0%	9.0%	5.7%	0.6%	0.7%	14.8%	14.8%	1.2%	1.6%	9.2%	9.3%	9.5%

【過去問との関連について】

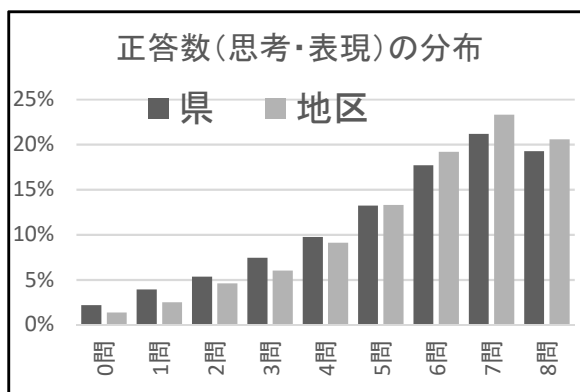
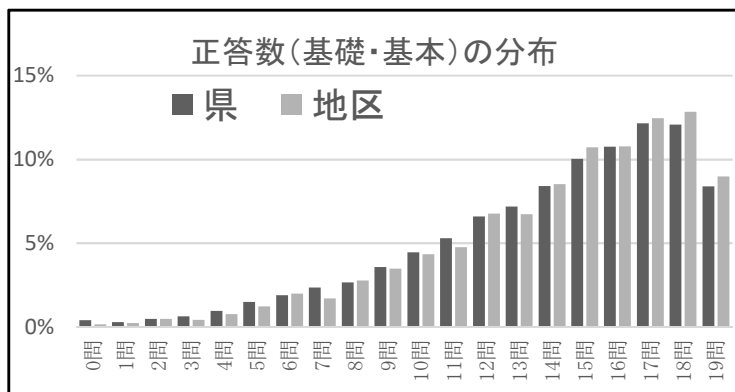
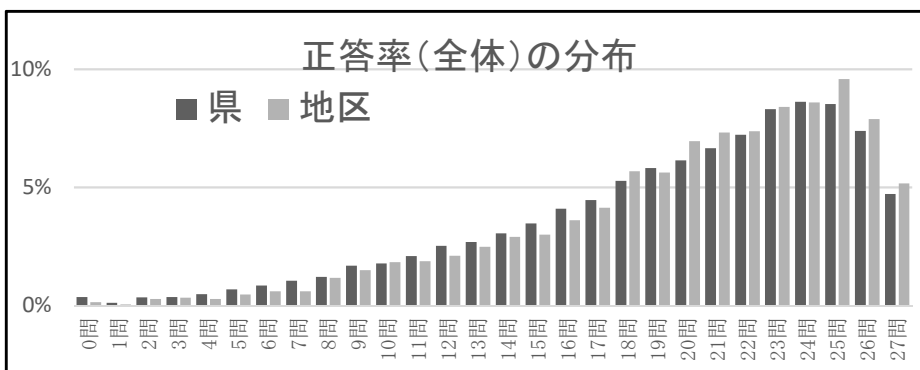
- 〔1〕 二 1 用言の活用 (H29, 30類似)
- 〔1〕 二 2 敬語の種類 (H29, H30類似)
- 〔1〕 四 慣用句 (H29, 30類似)
- 〔1〕 五 行書の特徴 (H30類似)
- 〔5〕 三 条件作文 (2学期重点問題)

- 「基礎・基本」については、例年出題されている動詞の活用や敬語に関する設問に課題がある。また、「読むこと」については、目的に応じて正確に読み取る力の育成が喫緊の課題である。また、何が問われているのか、どのように自分の考えを述べるのかなど、設問条件を捉える指導も必要である。
- 「思考・表現」については、7問/9問が県の平均通過率を下回った。さらに、無回答率も他学年に比べて高い。特に、「目的や状況に応じて工夫して表現する」設問において、また、「読むこと」においては、内容を正確に読み取った上で、自分の考えをまとめる設問に課題がある。
- 今後の取組として、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」やの学習の際、相互交流により考えを出し合ったり教え合ったりする活動を通して、的確に内容を理解したり、目的や状況に応じて自分の考えを書いたりする活動を充実させる必要がある。

小学校5年 社会

	県	地区	県との差
基礎・基本	73.6	74.7	1.1
思考・表現	69.0	72.0	3.0
全体	72.2	73.9	1.7

領域名	県	地区	県との差
国土の様子	72.4	73.7	1.3
農業	70.8	73.7	2.9
水産業	69.2	70.3	1.1
工業	76.8	77.8	1.0
運輸・貿易	60.8	64.0	3.2



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]				[2]			[3]				[4]				[5]					[6]						
中間番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)					
小問番号	①	②						①	②	変化理由	①	②									①	②					
県通過率	89.5%	73.1%	65.4%	68.5%	60.6%	89.2%	75.8%	57.5%	66.3%	47.2%	82.2%	79.3%	77.3%	66.8%	76.6%	74.9%	54.7%	71.6%	75.5%	77.5%	53.7%	90.7%	87.9%	57.2%	91.6%	79.3%	60.8%
地区通過率	86.7%	76.0%	76.1%	70.8%	56.6%	90.0%	76.3%	57.4%	71.0%	49.7%	80.9%	85.0%	83.2%	67.3%	79.0%	73.5%	56.4%	73.8%	77.6%	75.0%	56.1%	93.0%	91.3%	53.1%	94.9%	81.3%	64.0%
誤答率	11.7%	21.3%	19.7%	28.1%	41.1%	8.9%	23.1%	40.1%	28.3%	49.5%	14.1%	13.6%	14.4%	28.3%	17.0%	24.6%	42.7%	22.7%	19.6%	24.6%	42.3%	5.5%	7.8%	37.5%	3.4%	15.6%	34.2%
無答率	1.6%	2.7%	4.2%	1.1%	2.3%	1.1%	0.6%	2.4%	0.7%	0.8%	5.0%	1.5%	2.4%	4.4%	4.0%	1.8%	0.9%	3.5%	2.8%	0.4%	1.6%	1.5%	0.9%	9.4%	1.7%	3.1%	1.8%

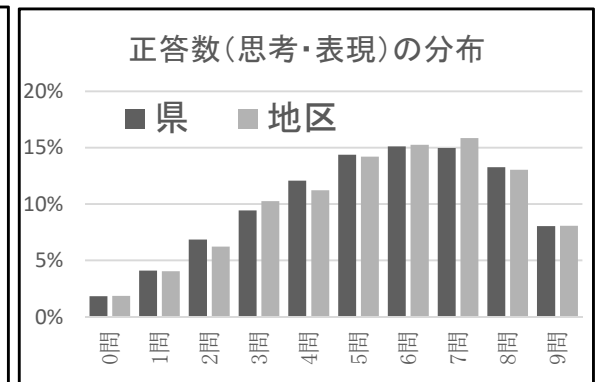
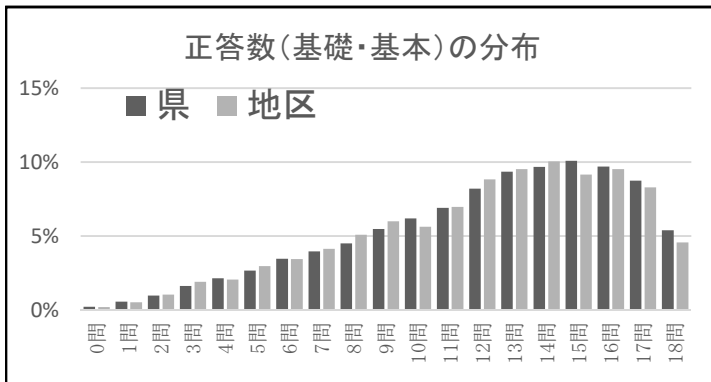
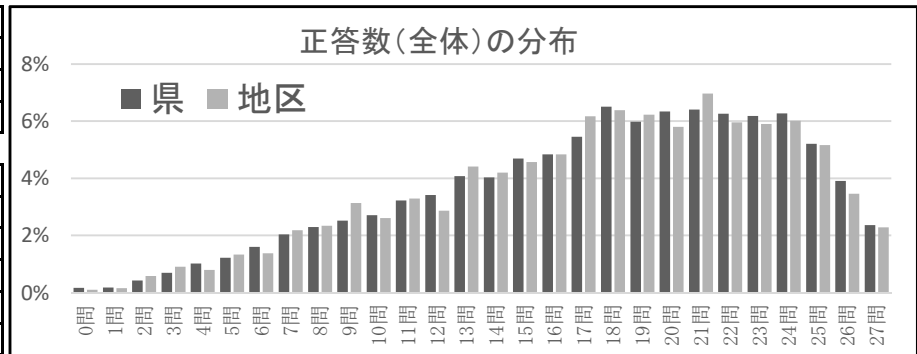
【過去問との関連について】

- [1] (1)(2) 国土を構成する島名・北方領土 (H28, 29, 30) [5] (2) 自動車工場と関連工場との関係 (H28)
- [2] (2) 雨温図の読取と季候の特色 (H28, 29, 30)
- [4] (1) 海流の様子 (H28, 29, 30)
- [4] (2) 資料の読取 (水揚げ量) (H28, 29, 30)
- [4] (3) 水産業が抱える問題 (図の読取) (H30類似)

- 「基礎・基本」については、社会的事象に関する理解を問う問題を中心に出されており、授業において調べる活動の中で理解を深める学習を行っていけば解ける問題である。大切になるのは授業の終末においてまとめを行う中で、しっかり定着を図ることが不可欠となる。
- 「思考・表現」については、特に、「提示された資料を比較して読み取ったことを関連付けて表現する問題」や「自動車会社の工場と関連工場の関係について資料を基に考えて指摘する問題」に課題があった。どちらも、日常の授業において主体的に社会的事象を調べる問題解決的な学習をしておく必要がある。
- 今後、授業改善を進めるに当たっては、ただ調べるだけではなく、資料やグラフから分かることを説明したり、複数の資料の共通する部分や相違点等をまとめたりする活動を重視するとともに、ひたすら調べ、ひたすらまとめるだけではなく、自分の考えを根拠を示しながら発表

中学校1年 社会

	県	地区	県との差
基礎・基本	67.2	66.3	-0.9
思考・表現	60.1	60.3	0.2
全体	64.9	64.3	-0.6
領域ごと			
	県	地区	県との差
世界の地域構成	60.2	58.5	-1.7
人々の生活と環境	74.7	75.5	0.8
世界の諸地域	57.5	58.1	0.6
歴史のとらえ方	61.5	61.2	-0.3
古代までの日本	68.2	66.8	-1.4



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]				[2]				[3]						[4]					[5]					[6]		
中間番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)
県通過率	72.8%	76.0%	47.3%	44.6%	81.0%	63.5%	80.1%	74.3%	52.2%	42.1%	57.7%	60.6%	82.1%	50.0%	56.0%	85.7%	84.8%	80.8%	81.1%	56.5%	53.3%	68.5%	59.9%	55.9%	71.3%	66.2%	46.9%
地区通過率	68.2%	74.1%	46.3%	45.2%	80.9%	67.4%	80.0%	73.9%	51.4%	39.9%	60.2%	61.2%	82.5%	53.4%	56.6%	84.8%	83.6%	78.1%	77.9%	56.8%	50.4%	70.7%	56.6%	51.9%	70.6%	63.7%	49.1%
誤答率	29.7%	24.7%	53.2%	49.8%	18.8%	32.4%	16.0%	25.0%	41.6%	57.7%	39.2%	38.3%	11.4%	36.4%	42.8%	14.8%	8.4%	17.4%	17.3%	42.7%	49.1%	20.3%	37.7%	47.5%	27.3%	30.5%	50.3%
無答率	2.1%	1.3%	0.5%	5.0%	0.3%	0.2%	4.0%	1.1%	7.0%	2.4%	0.6%	0.5%	6.1%	10.3%	0.5%	0.3%	8.0%	4.5%	4.8%	0.4%	0.5%	9.1%	5.7%	0.6%	2.1%	5.8%	0.6%

【過去問との関連について】

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| [1] (3) 経度と緯度での表現 (H30類似問題) | [4] (1) 四大河文明の特徴 (H27) |
| [1] (4) 地図の特色 (H27, 30) | [4] (4) 弥生時代稲作と社会の変化 (H27) |
| [2] (3) 雨温図と居住との関連付け (H28, 重点課題) | [4] (5) 古墳名 (H27) |
| [2] (4) 三大宗教 (H28, 29, 30) | [5] (3) 奈良時代の農民の生活 (H29類似) |
| [3] (2) 原油の主な生産地 (H28, 30) | |
| [3] (4) ヨーロッパの自然環境 (H28, 29, 30) | |
| [3] (6) モノカルチャー経済の課題 (H27) | |

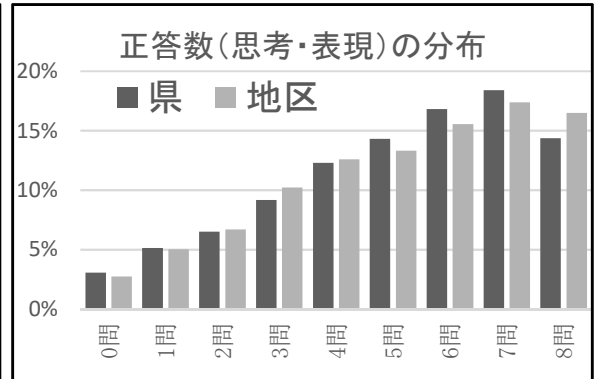
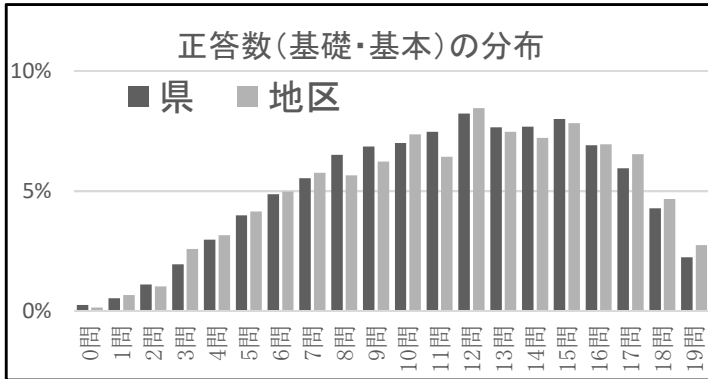
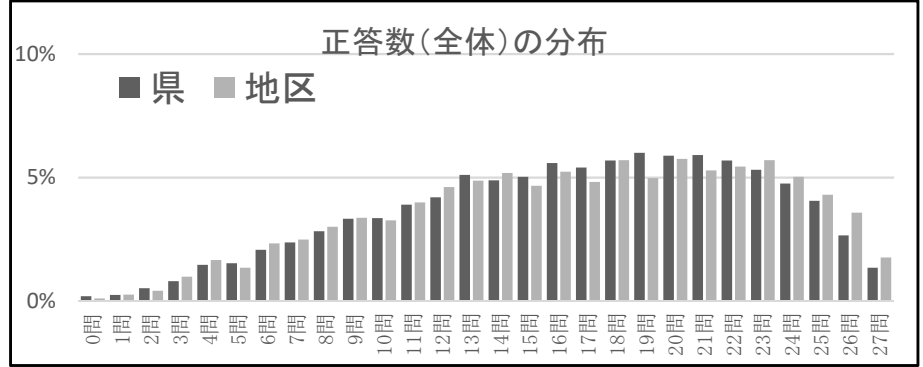
- 「基礎・基本」については、社会的事象に関して単純な知識を問う問題や事象間を関連付けて理解しているかを問う問題が出されていた。その中で最も通過率の低かった問題は石油とその主な産出地を、地図上の位置と関連付けて理解できているかを問う問題であった。通過率の低かった原因としては、授業中に教科書を読んで理解したつもりになっていたり、教師がポイントを板書した内容をノートに転記するだけだったりといったことが考えられる。社会的事象について、地図帳や教科書記述を関連付ける問いかけを行ったり、確認テストを終末に行ったりといった授業改善が必要になる。
- 「思考・表現」についても、地図の読み取りに関する問題に難があった。やはり、日頃の学習において、表やグラフ、年表や地図といった資料を教科書記述と関連付けて意図的に扱う中で、分かったことをまとめるようにする必要がある。
- 今後はさらに、提示された資料を関連付けたり、比較したりして読み取ったことを基に、自分の言葉でまとめたり、発表させたりすることで、表現力を高めるような学習にも取り組ませることが求められる。

中学校2年 社会

	県	地区	県との差
基礎・基本	59.7	60.4	0.7
思考・表現	64.6	65.3	0.7
全体	61.2	61.8	0.6

領域ごと

	県	地区	県との差
日本の地域構成	60.3	62.8	2.5
日本の地域的特色	72.3	71.8	-0.5
日本の諸地域	65.8	65.1	-0.7
近世の日本	55.8	56.7	0.9



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]					[2]					[3]				[4]					[5]				[6]			
中間番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)
県通過率	36.7%	69.9%	61.4%	74.0%	59.5%	81.7%	81.4%	63.8%	58.9%	75.8%	63.4%	77.7%	70.2%	50.9%	61.9%	48.7%	54.5%	59.2%	65.3%	80.3%	51.4%	69.7%	44.2%	55.6%	53.1%	44.2%	37.3%
地区通過率	38.7%	71.5%	65.2%	78.0%	60.3%	80.8%	80.7%	63.7%	57.8%	75.7%	63.8%	79.3%	70.9%	46.5%	66.7%	52.1%	58.0%	63.4%	66.4%	80.3%	52.1%	71.7%	41.8%	50.4%	53.0%	44.3%	36.7%
地区誤答率	61.0%	28.0%	34.5%	12.5%	36.4%	12.0%	14.6%	35.3%	33.0%	23.7%	26.0%	20.3%	28.5%	33.2%	32.8%	25.6%	40.9%	26.5%	33.2%	15.7%	45.4%	16.9%	57.2%	36.8%	45.0%	39.0%	61.4%
地区無答率	0.3%	0.5%	0.3%	9.5%	3.4%	7.2%	4.7%	1.0%	9.3%	0.5%	10.2%	0.4%	0.6%	20.3%	0.6%	22.3%	1.1%	10.1%	0.4%	3.9%	2.5%	11.4%	1.0%	12.8%	2.0%	16.7%	1.9%

【過去問との関連について】

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| [1] (2) 経度と緯度の読取 (H30) | [4] (1) 新航路の開拓 (H30) |
| [1] (3) 北方領土 (H30) | [4] (2) 中世ヨーロッパの文化 (H27) |
| [1] (5) 地域の特徴 (H28, 29, 30類似) | [4] (4) 太閤検地 (H29) |
| [2] (2) 日本と世界の川の比較 (H30小5) | [4] (5) 桃山文化 (H29) |
| [2] (3) 日本の気候と雨温図 (H30) | [6] (4) 元禄・化政文化 (H29, 30類似) |
| [2] (4) 四つの工業地帯の特徴 (H28) | |

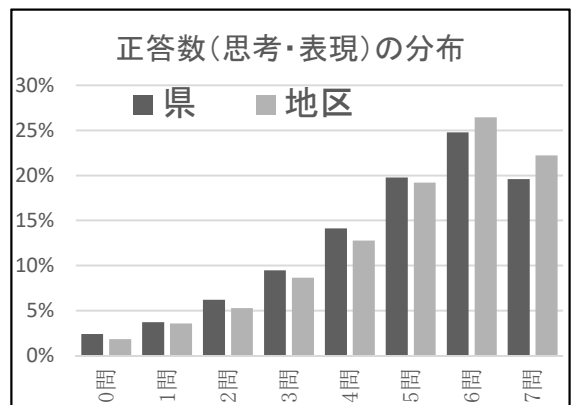
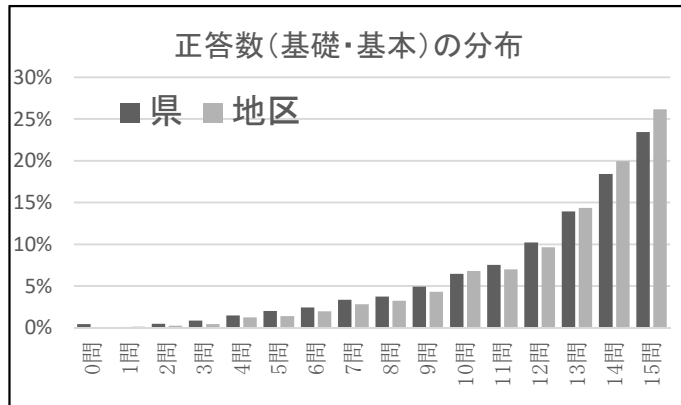
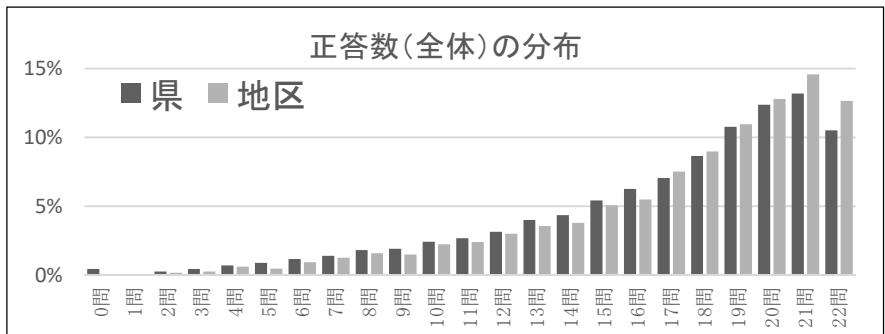
- 「基礎・基本」については、社会的事象に関して図表や写真から読み取ったり、いくつかの知識を結び問うたりする問題が出されていた。例えば、通過率の低かった地図上の経線を使って時差の計算をする問題。前提として「日付変更線」について理解を深めておく必要がある。そのためには、日付変更線を説明するはなく、いくつかの都市を比較させる問いをするなどといった授業設計上の工夫をする必要がある。
- 「思考・表現」については、産業と気候を関連付けて説明したり、工業制手工業の生産方法の特色を正解した上で説明したりする問題に難があった。なぜ、説明ができないかという示された図表から大切な直感的に掴んだり読み取ったりすることができないからではないか。改善に向けては、日頃の授業の中で読み取り方に習熟する学習活動を意図的に学習過程に位置付けていく必要がある。
- 今後はさらに、各種調査等を活用して、基礎的・基本的内容の定着が図られるように指導を繰り返した業の終末で扱った資料を根拠に分かったことをまとめたり、発表したりする活動を繰り返し位置付けたりとが求められる。

小学校5年 算数

	県	地区	県との差
基礎・基本	79.9	82.1	2.2
思考・表現	69.7	71.1	1.4
全体	76.7	78.8	2.1

領域ごと

	県	地区	県との差
数と計算	76.7	79.3	2.6
量と測定	78.7	80.8	2.1
図形	82.3	83.6	1.3
数量関係	70.9	72.8	1.9



【小問ごと通過率等】

大問番号	[1]					[2]		[3]		[4]		[5]	[6]	[7]		[8]		[9]		[10]		
中間番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)			(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)
小問番号																①~④						
県通過率	98.4%	81.9%	80.8%	76.5%	78.6%	70.4%	61.0%	79.9%	77.2%	82.2%	76.8%	63.9%	86.3%	98.0%	87.3%	90.5%	79.9%	86.0%	62.4%	72.8%	56.7%	39.6%
地区通過率	98.5%	83.7%	85.5%	78.5%	82.6%	72.8%	64.6%	80.9%	79.6%	84.5%	78.6%	66.6%	88.8%	98.1%	88.3%	90.7%	80.6%	86.9%	66.0%	77.0%	59.7%	41.0%
地区誤答率	1.4%	16.0%	13.8%	20.5%	17.1%	27.1%	35.4%	18.3%	19.1%	15.3%	21.2%	32.3%	10.6%	1.8%	11.0%	8.3%	18.3%	12.1%	29.5%	22.1%	39.1%	54.6%
地区無答率	0.0%	0.2%	0.7%	1.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.8%	1.3%	0.2%	0.2%	1.0%	0.6%	0.1%	0.7%	0.9%	1.0%	1.0%	4.5%	0.9%	1.2%	4.4%

【過去問との関連について】

- [1] 四則計算 (H28, 29, 30類似) [7] 数量の関係(長方形の変化) (H30)
- [2] 乗数と積及び除数の商の大小, 規準量と比較量の関係 (H30)
- [3] 最大公約数と最小公倍数 (H30) [8] 多角形の内角の和 (H30)
- [4] 四角形の対角線の性質, 三角形の合同 (H30)
- [5] 台形の面積 (H30) [9] 単位量当たりの数量の比較, 余りのある除法 (H30)
- [6] 直方体の体積 (H30) [10] グラフの読取(重点課題)

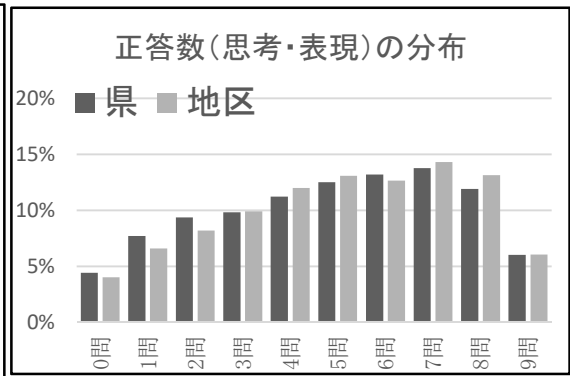
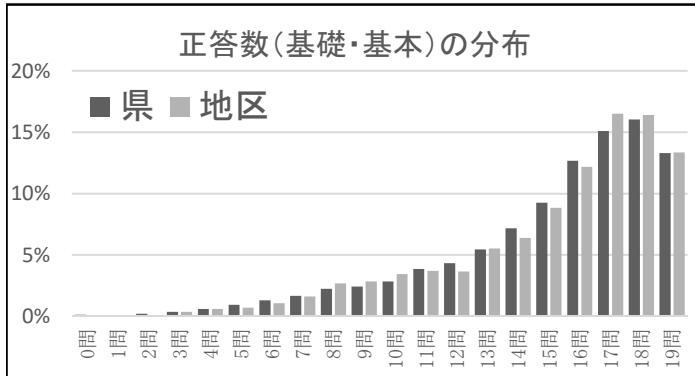
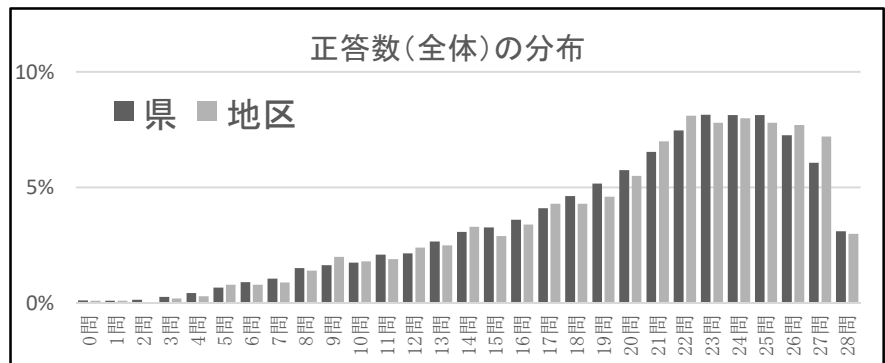
- 全ての問題において、通過率は県平均を上回ることができた。
- 「基礎・基本」については、基準量と比較量の関係、台形の面積を求める問題が正答率70%に達していない。無答率は高くないことから、問題文の読み取り不足や計算の間違いも考えられる。基礎・基本の確実な定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、グラフから特徴を読み取ったり、説明したりする「数量関係」領域に課題が見られる。また、無答率が4%を超えた2問は、どちらも文章で答える問題である。
- 今後の取組としては、授業において、データを整理し、表やグラフに表す活動、データの特徴を読み取って考察し、数学的な表現を用いて記述したり、説明したりする活動を取り入れていく必要がある。

中学校1年 数学

	県	地区	県との差
基礎・基本	79.2	79.7	0.5
思考・表現	54.6	56.5	1.9
全体	71.3	72.3	1.0

領域ごと

	県	地区	県との差
数と式	74.8	75.5	0.7
図形	74.3	75.2	0.9
関数	49.4	50.9	1.5
資料の活用	71.3	73.0	1.7



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]					[2]					[3]			[4]		[5]			[6]		[7]							
中間番号	1					2	3	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	1	2	1	2	3				
小問番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)							(1)	(2)			(1)	(2)											
県通過率	91.6%	82.3%	83.4%	71.9%	64.2%	90.4%	81.0%	71.5%	84.8%	77.5%	58.3%	48.1%	90.8%	49.3%	95.8%	95.6%	68.4%	80.1%	16.8%	88.0%	78.8%	63.4%	47.8%	70.2%	29.9%	93.4%	68.2%	54.7%
地区通過率	90.4%	83.1%	84.0%	73.3%	65.2%	90.4%	81.3%	72.2%	84.5%	77.2%	59.3%	48.6%	91.4%	49.7%	95.5%	95.4%	69.5%	81.3%	17.5%	89.8%	80.1%	66.6%	49.5%	72.0%	32.0%	93.9%	72.7%	57.3%
地区誤答率	9.6%	16.8%	15.7%	23.6%	30.8%	9.5%	16.1%	27.2%	12.3%	18.2%	36.3%	51.0%	7.3%	43.3%	4.3%	4.2%	28.5%	17.9%	74.9%	7.3%	19.2%	30.6%	44.4%	21.3%	56.9%	2.8%	22.6%	36.7%
地区無答率	0.1%	0.1%	0.3%	3.2%	4.0%	0.1%	2.6%	0.5%	3.2%	4.6%	4.4%	0.5%	1.2%	7.0%	0.2%	0.4%	2.1%	0.7%	7.6%	2.9%	0.8%	2.8%	6.1%	6.6%	11.1%	3.2%	4.8%	6.0%

【過去問との関連について】

- [1] 1 四則計算 (H28, 29, 30類似)
- [1] 2 正負, 0 の関係 (H27類似)
- [2] 2 3 4 文字式, 方程式, 不等式 (H30)
- [2] 5 長方形における数量の関係 (H30)
- [2] 6 資料の比較 (H30)
- [3] 立体の展開図 (H30)
- [5] 文字式の活用 (H30)
- [6] 速さ, 道のりと速さの関係 (H30)

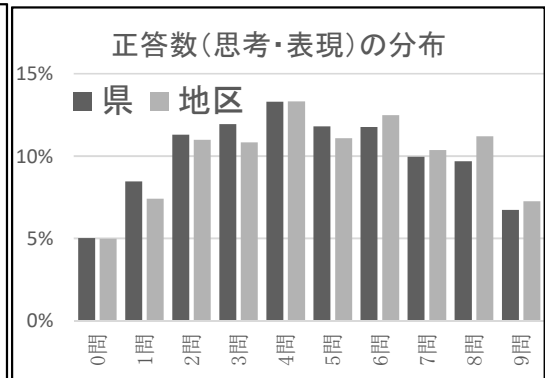
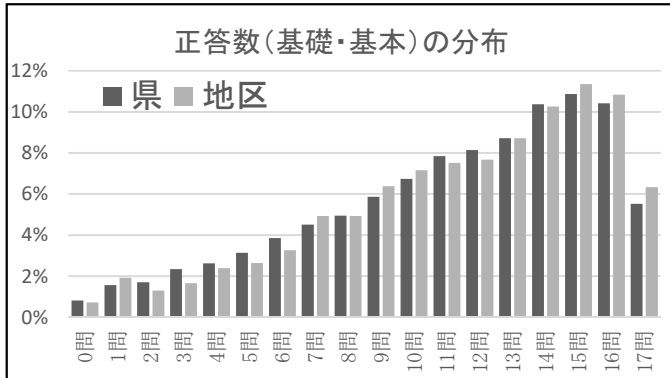
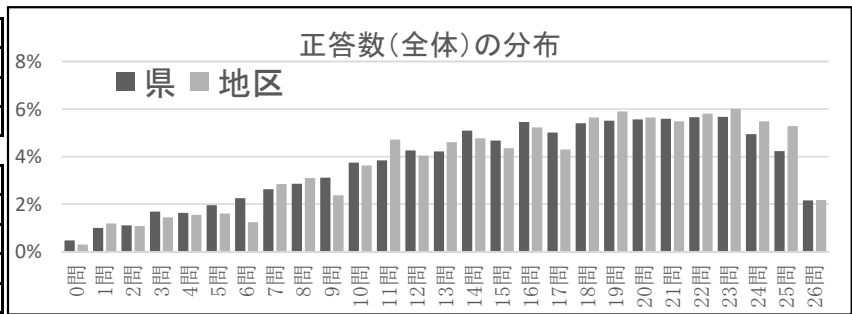
- 「基礎・基本」については, 具体的な事象から数量関係を捉え, 不等式で表すことに課題があることから, 文字式のきまりを理解させるとともに, 文字式を図表や絵で考えさせる活動が必要である。また, グラフから数量関係が比例の関係であることを見出すことについても課題があり, グラフから値の移り変わりを捉えさせたり, 比例のグラフの特徴を考えさせたりする指導を丁寧に行う必要がある。
- 「思考・表現」については, 道のりと速さの関係から判断の理由を説明することや, 課題解決の方法や判断の根拠などを言葉や数字, 式などを用いて, 筋道を立てて説明することに課題がある。
- 今後の取組としては, 設問の意図を理解する読解力や思考力の育成が重要である。また, 日常生活の中と結び付けた学習問題や, 問題解決的な学習の中で主体的に考え, 説明する場面を設定することが必要である。さらに, 各学校における思考, 判断, 表現に関する演習問題に対する意図的・計画的な取組が進められていることが調査結果の改善を促しているといえる。これを継続した取組に変えていくことが必要である。

中学校2年 数学

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.9	66.9	1.0
思考・表現	50.9	52.6	1.7
全体	60.7	62.0	1.3

領域ごと

	県	地区	県との差
数と式	69.8	71.2	1.4
図形	59.0	58.8	-0.2
関数	63.1	65.7	2.6
資料の活用	27.3	29.5	2.2



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]				[2]		[3]				[4]		[5]			[6]			[7]			[8]				
中間番号	1				2	3	1	2	1	2	3	4	1	2	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
小問番号	(1)	(2)	(3)	(4)																						
県通過率	93.2%	83.4%	83.0%	88.7%	62.6%	60.1%	79.0%	35.1%	66.3%	65.1%	62.2%	46.6%	58.5%	61.6%	77.7%	39.8%	65.5%	71.4%	67.9%	33.2%	79.9%	71.1%	44.2%	16.9%	31.2%	33.7%
地区通過率	92.9%	86.1%	82.7%	89.5%	65.7%	63.5%	80.7%	34.3%	66.2%	63.3%	62.3%	46.3%	62.6%	64.7%	77.4%	47.9%	62.0%	71.6%	65.7%	36.3%	82.0%	71.7%	47.4%	17.8%	34.1%	36.6%
地区誤答率	6.9%	13.2%	17.0%	7.5%	30.3%	26.2%	14.6%	54.0%	26.0%	34.2%	33.7%	43.0%	30.4%	33.6%	16.6%	37.3%	21.9%	26.9%	28.2%	32.8%	15.0%	25.7%	44.1%	67.5%	30.9%	55.1%
地区無答率	0.2%	0.7%	0.4%	3.0%	3.9%	10.3%	4.7%	11.7%	7.8%	2.4%	4.0%	10.6%	7.0%	1.8%	6.0%	14.7%	16.1%	1.5%	6.1%	30.9%	3.0%	2.5%	8.6%	14.7%	35.1%	8.3%

【過去問との関連について】

- [1] 計算 (正負, 多項式, 単項式, 文字式) (H28, 29, 30類似)
- [2] 1 連立方程式 (H28, 29, 30) [5] 文字式 (重点課題)
- [2] 2 2元1次方程式 (H28) [7] 関数 (比例の活用) (H30類似)
- [3] 1, 2, 3 三角形 (垂線, 角度, 合同) (H30)
- [3] 4 円錐の体積 (H27) [8] 代表値, 最頻値, 資料の読取 (H30類似)
- [4] 比例・反比例

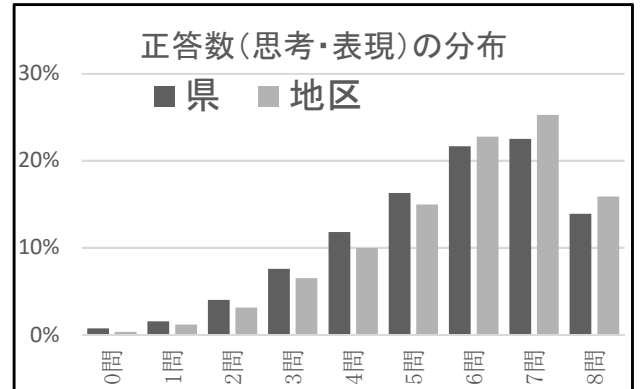
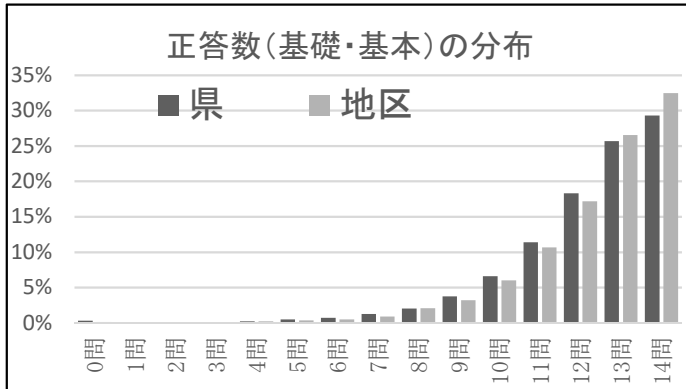
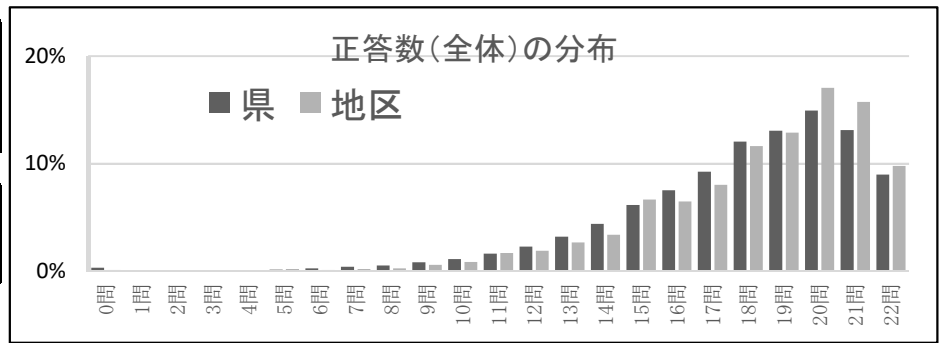
- 「基礎・基本」については、正答数の分布からも県と比較して上位層の割合が高い。また、与えられた資料の代表値を適切に求めることについては、県同様に本地区の課題である。さらに、数量の関係を捉え、2元1次方程式を立式することも課題であることから、文字式を図表で考えさせ、2種類の文字の意味を理解させることが必要である。
- 「思考・表現」については、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに正答率が最も低く、無解答率も高い。
- 今後の取組としては、「見通し」の段階で、根拠をもって課題の解決方法を考えたり、対話的な活動の際、式やグラフ等を用いた説明し合ったりする活動を計画的に設定する必要がある。また、図形の問題に対する平均通過率が県を下回っていることから、ICT (デジタル教科書等を含む) を活用した説明活動を取り入れることも考えられる。資料の活用で代表されるように、年度末に扱う内容に関しては、十分に演習を積ませるために、カリキュラムのバランスをとったり、学校間で連携して指導したりする必要がある。

小学校5年 理科

	県	地区	県との差
基礎・基本	87.5	88.6	1.1
思考・表現	70.2	72.8	2.6
全体	81.2	82.9	1.7

領域ごと

領域名	県	地区	県との差
物質・エネルギー	76.7	78.8	2.1
生命・地球	87.6	88.7	1.1



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]			[2]			[3]			[4]			[5]			[6]			[7]			
中間番号	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)
県通過率	86.6%	93.2%	89.8%	91.6%	83.2%	71.4%	91.4%	67.4%	66.3%	87.6%	85.0%	70.5%	96.3%	89.7%	73.0%	74.2%	95.3%	90.6%	95.0%	79.9%	31.1%	76.8%
地区通過率	87.4%	94.0%	88.9%	92.0%	86.3%	74.7%	92.7%	69.1%	68.6%	87.3%	88.2%	72.2%	97.2%	92.3%	76.0%	77.0%	95.4%	90.5%	96.3%	84.7%	33.1%	78.8%
誤答率	12.6%	5.9%	11.1%	8.0%	13.6%	25.3%	7.2%	30.9%	31.3%	12.6%	11.5%	27.4%	2.6%	7.5%	23.6%	21.5%	4.6%	9.5%	3.7%	15.2%	66.8%	20.9%
無答率	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%

【過去問との関連について】

- [4] (1)(2) 電流 (H30)
- [4] (3) 電流 (H27)
- [7] ものの溶け方(H30)

「基礎・基本」については、「メダカのたまごが時間経過とともにどのように変化するかを問う問題」や「乾電池の向きを変えると、電流の向きが変わることの理解を問う問題」「水の流れによって、川の岩や石の形に違いができること」の理解を問う問題」等が若干低かった。

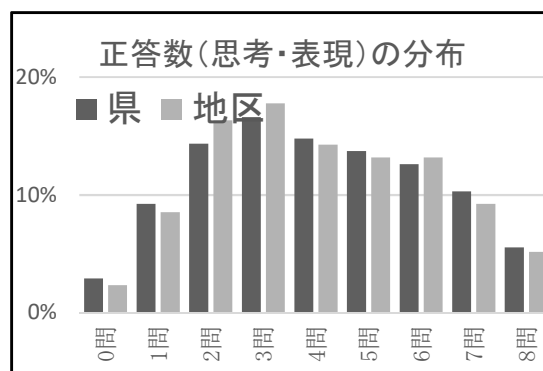
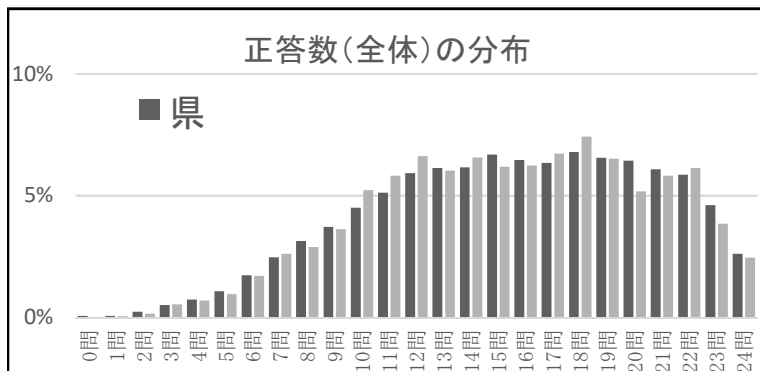
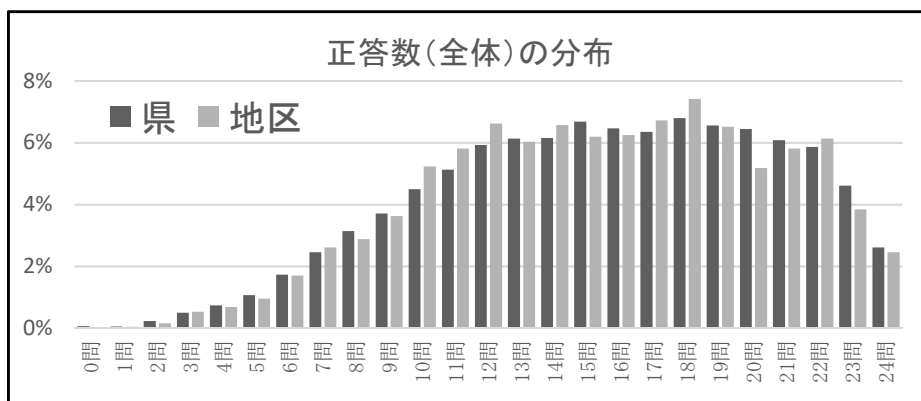
「思考・表現」については、目標通過率の5割を達成しているが、「グラフで示した実験結果を基に、水の温度とミョウバンが溶ける量を関係付けて考察する問題」の通過率に課題がある。

今後は、授業において、日常における具体的な場面や自然の事物・現象をもとに課題意識を高めさせ、観察、実験を確実に行わせたり、作成したグラフを基に、他の条件での実験結果を予想させたりすることが必要である。

中学校1年 理科

	県	地区	県との差
基礎・基本	71.5	70.6	-0.9
思考・表現	51.3	50.3	-1.0
全体	64.8	63.8	-1.0

領域ごと			
	県	地区	県との差
物理	67.7	66.4	-1.3
化学	61.8	61.2	-0.6
生物	67.6	65.8	-1.8
地学	62.3	62.4	0.1



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]			[2]			[3]		[4]			[5]			[6]			[7]			[8]			
中間番号	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	2	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)
県通過率	41.7%	88.0%	78.9%	92.3%	74.5%	50.4%	74.2%	64.4%	73.3%	57.3%	54.9%	89.8%	72.1%	25.0%	94.4%	61.2%	51.0%	70.9%	71.0%	37.1%	46.6%	78.5%	64.3%	42.4%
地区通過率	40.1%	87.6%	72.3%	92.7%	74.8%	49.1%	73.4%	63.3%	71.0%	56.8%	54.2%	89.9%	70.3%	26.9%	94.8%	62.2%	45.9%	69.0%	67.2%	38.1%	46.1%	80.2%	65.4%	40.8%
地区誤答率	59.7%	12.4%	26.1%	7.2%	25.0%	44.4%	26.3%	29.1%	28.9%	41.6%	44.5%	9.7%	28.6%	72.5%	5.0%	37.4%	50.8%	29.6%	30.9%	61.1%	44.3%	19.1%	33.7%	58.1%
地区無答率	0.2%	0.0%	1.6%	0.1%	0.3%	6.5%	0.4%	7.5%	0.2%	1.6%	1.3%	0.4%	1.1%	0.5%	0.3%	0.4%	3.3%	1.4%	1.9%	0.8%	9.6%	0.7%	0.9%	1.1%

過去問との関連について

- [1] (1) 被子植物・裸子植物 (H30)
- [2] 植物のしくみ (気孔, 道管) (H29)
- [4] 金属の性質 (H30)
- [7] 音の変化 (重点課題)

「基礎・基本」については、「被子植物と裸子植物の違いの理解を問う問題」「金属に共通する性質の理解を問う問題」「音を出している物体は振動していることと、大気中で音を伝えている物質は空気であることの理解を問う問題」に課題がある。植物の構造など基本的な知識を図等を活用して十分に理解させるとともに、真空を使うなど実験を通して理解を深めさせる必要がある。

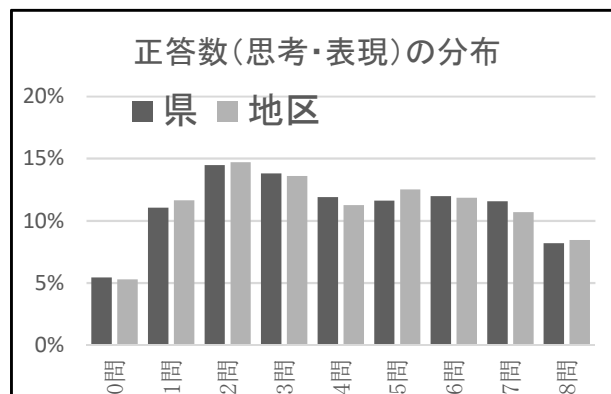
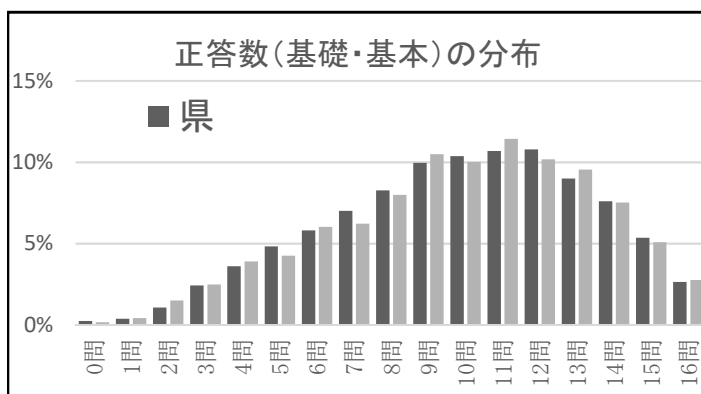
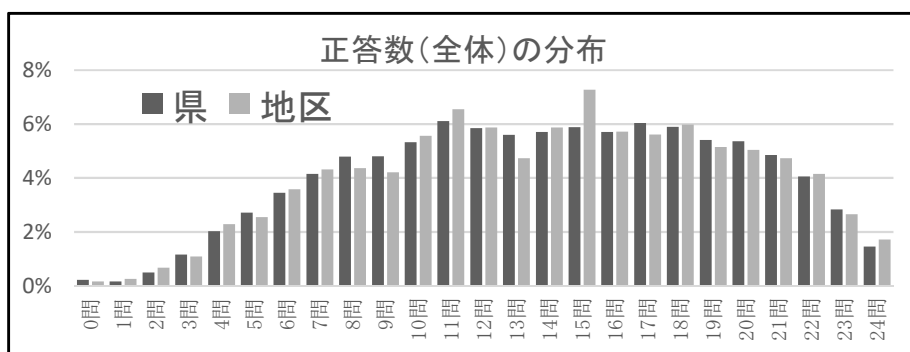
「思考・表現」については、「作図によってレンズの焦点を求める問題」「音の変化の理由について、音が伝わる原理を基に推測する問題」「実験の結果から生じた疑問を別の現象に適用させて表現できるかを問う問題」等に課題がある。

授業においては、「理科の見方・考え方」を働かせて、問題解決の活動（探究活動）を行えるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図るとともに、結果を分析し解釈する場面では、「共通点と差異点」「比較する」「関係付ける」ことを意識して、発問や助言を工夫する必要がある。

中学校2年 理科

	県	地区	県との差
基礎・基本	61.6	61.7	0.1
思考・表現	50.7	50.4	-0.3
全体	58.0	57.9	-0.1

領域名	県	地区	県との差
物理	46.1	45.3	-0.8
化学	55.2	56.0	0.8
生物	70.9	70.0	-0.9
地学	54.0	54.5	0.5



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]			[2]			[3]			[4]				[5]				[6]			[7]			
中間番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
県通過率	77.0%	84.8%	60.7%	42.5%	92.9%	74.8%	63.9%	42.7%	62.4%	42.3%	87.0%	24.8%	38.8%	33.8%	69.8%	70.2%	71.0%	49.1%	37.3%	57.4%	31.9%	85.0%	50.9%	40.6%
地区通過率	74.7%	85.8%	61.1%	35.9%	92.8%	76.2%	63.4%	46.5%	62.4%	45.0%	86.1%	24.1%	38.7%	32.2%	69.4%	74.4%	70.9%	48.4%	37.3%	58.8%	33.0%	84.2%	51.0%	38.5%
地区誤答率	15.9%	13.9%	36.4%	47.4%	5.0%	23.5%	34.1%	53.0%	32.2%	54.6%	13.1%	68.8%	55.9%	67.2%	25.4%	19.5%	28.1%	43.4%	61.6%	33.5%	48.0%	14.4%	47.5%	57.4%
地区無答率	9.4%	0.3%	2.5%	16.7%	2.2%	0.4%	2.4%	0.5%	5.3%	0.5%	0.8%	7.3%	5.4%	0.6%	5.2%	6.2%	0.9%	8.2%	1.1%	7.7%	19.0%	1.4%	1.5%	4.0%

過去問との関連について

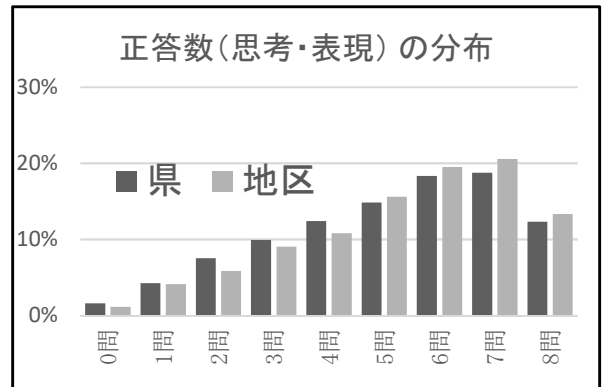
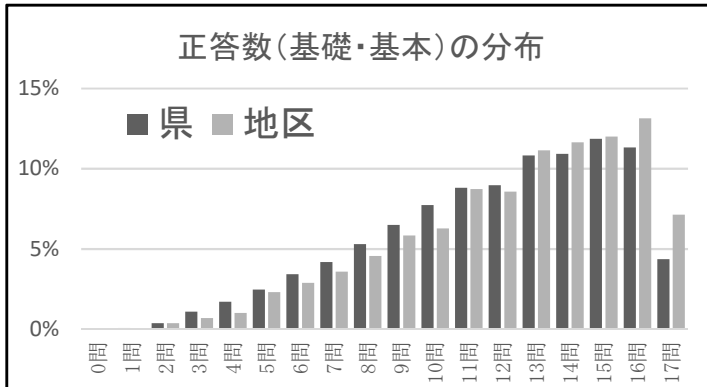
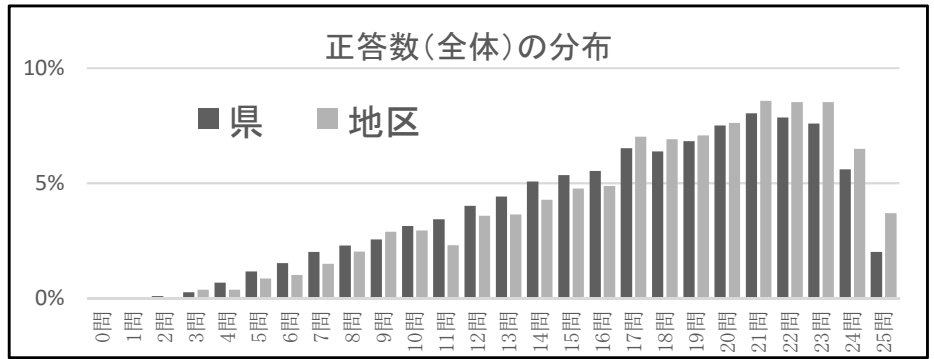
- 〔2〕 セキツイ動物の体のしくみ (H30類似)
- 〔4〕 重力 (H29, 30)
- 〔6〕 化学反応(酸化) (H30)

- 「基礎・基本」については、特に「肺のつくりの名称の理解を問う問題」や「冬場の季節風の特徴及び雲が消える原因についての理解を問う問題」「浮力が深さに関係していないこと」の理解を問う問題」が県平均通過率との差が大きい。
- 「思考・表現」については、「セキツイ動物の呼吸器に共通して見られる表面積を増やす仕組みを類推する問題」や「セキツイ動物の種類について、その相違点から生物の進化の過程を類推する問題」に課題がある。また、「酸化銅の還元を理解し、その反応をモデルで表すことができるかを問う問題」も課題があり、単元の始めの段階で、粒子で考える習慣を身に付けさせる必要がある。
- 授業においては、単元への興味・関心や課題意識を高めさせるために、導入時に演示実験等を通して疑問をもたせたり、違いを見付けさせた上で課題解決的に実験を進めたり、自然の事物・現象をもとに既習事項や生活体験との連携を図りながら学ばせ、単元末には学習したことを振り返り、かごしま学力向上支援 Web システムにある評価問題を活用するなど、学習内容の確実な定着を図る授業改善の必要がある。

中学校1年 英語

	県	地区	県との差
基礎・基本	69.6	72.4	2.8
思考・表現	64.1	66.5	2.4
全体	67.9	70.5	2.6

領域名	県	地区	県との差
聞くこと	75.4	77.9	2.5
話すこと	71.1	74.2	3.1
読むこと	66.6	68.1	1.5
書くこと	57.2	61.8	4.6



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]			[2]				[3]	[4]		[5]		[6]		[7]		[8]	[9]	[10]		[11]		[12]		
中間番号	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)			(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	
小問番号															①	②							内容	正確	
県通過率	99.4%	83.3%	27.4%	86.4%	87.0%	75.4%	86.1%	82.5%	73.1%	53.5%	92.7%	65.5%	79.1%	52.4%	71.3%	56.9%	71.1%	44.6%	65.6%	70.9%	67.2%	42.7%	41.8%	76.0%	45.0%
地区通過率	99.0%	83.3%	36.1%	90.5%	87.4%	81.9%	89.5%	83.5%	71.6%	55.9%	94.2%	69.5%	83.2%	53.7%	74.1%	56.8%	72.4%	45.6%	63.9%	73.3%	68.1%	47.6%	45.9%	83.2%	52.6%
地区誤答率	0.9%	16.7%	63.8%	9.4%	12.4%	18.0%	10.3%	16.3%	25.7%	42.8%	5.6%	30.1%	16.4%	45.9%	25.6%	42.7%	27.1%	53.9%	28.0%	26.2%	31.5%	48.6%	49.1%	14.0%	44.6%
地区無答率	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	2.7%	1.3%	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.5%	0.5%	0.5%	8.1%	0.5%	0.5%	3.9%	5.0%	2.8%	2.8%

過去問との関連について

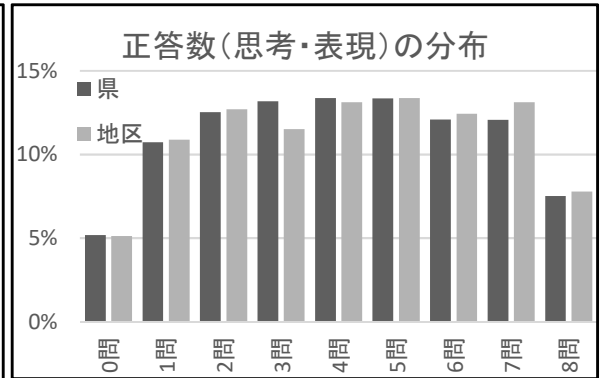
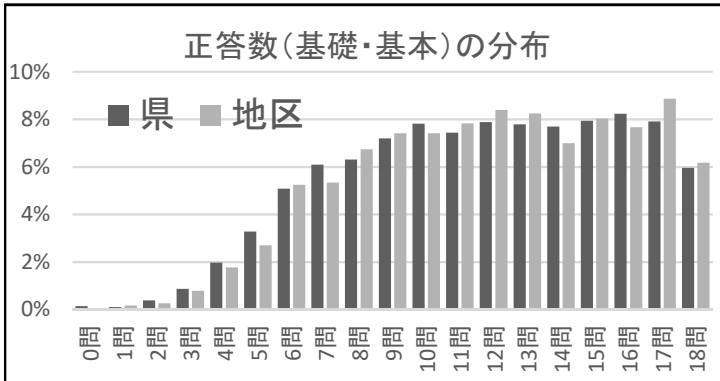
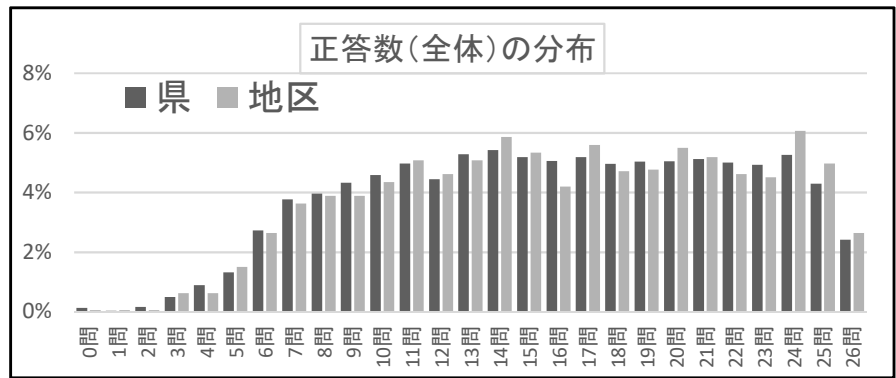
- [5] 読むこと (H28, 29, 30)
- [6] (1) 読むこと (H30類似)
- [6] (2) 読むこと (中2 H30類似)
- [7] 読むこと (H28, 29, 30)
- [10] (2) doesの疑問文 (H27, 30類似)
- [11] 話すこと・書くこと (H30類似)
- [12] 書くこと (H30類似)

- 「基礎・基本」については、英語を正しく聞き取ったり、必要な情報を読み取ったり、対話文を理解した上で、適切な英語を用いて表現したりすることに課題が見られる。
- 「思考・表現」については、英文の要点を把握したり、対話の流れに合う英文を書いたりすることに課題が見られる。
- 今後の取組としては、聞き取ったことや読み取ったことを発話又は発表させたり、ペアやグループで確認させたりしながら、学習を進めていく。読むことについては、大まかな内容を捉えるのか、大切なところを捉えさせるのかといった目的を明確にすることが大切である。その際、生徒自身の気付きや判断を大切にすることや、書いたり、話したりする活動へとつなげていくことを考えたい。また、正確性を高めるためには、ある程度の時間が必要であることから、繰り返し指導することが大切である。

中学校2年 英語

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.2	65.8	0.6
思考・表現	51.6	52.3	0.7
全体	61.0	61.6	0.6

領域名	県	地区	県との差
聞くこと	72.3	73.0	0.7
話すこと	57.3	57.7	0.4
読むこと	62.8	63.3	0.5
書くこと	49.8	50.6	0.8



【小問ごとと通過率等】

大問番号	[1]			[2]	[3]	[4]	[5]			[6]			[7]	[8]	[9]				[10]		[11]						
中間番号	(1)	(2)	(3)				(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	内容	正確				
小問番号							①	②	①	②			順不同	順不同													
正答数合計	1178	1815	1837	1847	979	794	1473	1550	1145	1307	959	1381	1348	923	1399	942	1047	1189	1416	1230	1061	795	689	888	1171	558	
県通過率	59.6%	93.1%	94.4%	95.9%	51.1%	39.8%	77.4%	77.4%	57.6%	68.3%	50.7%	66.7%	72.3%	48.1%	72.6%	47.7%	52.5%	62.1%	70.9%	65.6%	56.2%	42.4%	33.4%	43.6%	58.8%	28.4%	
地区通過率	61.0%	94.0%	95.2%	95.7%	50.7%	41.1%	76.3%	80.3%	59.3%	67.7%	49.7%	71.6%	69.8%	47.8%	72.5%	48.8%	54.2%	61.6%	73.4%	63.7%	55.0%	41.2%	35.7%	46.0%	60.7%	28.9%	
地区誤答率	38.9%	5.9%	4.7%	4.2%	49.1%	31.3%	23.5%	19.4%	40.4%	32.0%	50.1%	28.2%	29.5%	51.5%	26.8%	50.4%	44.1%	22.5%	26.1%	35.6%	44.4%	57.9%	55.1%	40.9%	30.3%	61.9%	
地区無答率	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	27.6%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.6%	0.7%	0.7%	0.8%	1.6%	15.9%	0.5%	0.6%	0.7%	0.9%	9.2%	13.1%	9.1%	9.2%

過去問との関連について

- [5] (2)/(3) 文と文のつながり (H30)
- [9] (2) what+名詞を用いた疑問文 (H30)
- [9] (4) 不定詞の形容詞的用法 (H30)
- [10] 話すこと・書くこと (H30)
- [11] 紹介文 (重点課題, H30)

- 「基礎・基本」については、英文を読んで正確に読み取ったり、文脈から判断し、適切な英語を用いて表現したりすることに課題が見られる。
- 「思考・表現」については、英文の要点を理解したり、聞いて把握した内容について適切に応じたりすることに課題が見られる。
- 今後の取組としては、目的に応じた読みを意識して指導を行っていきたい。聞き取りに際しては、日常的に、目的をもって聞かせるようにしながら、ペア活動などにより話し合ったことが正しかったかを確認した後、に、再度、聞かせるなどスモールステップを心がけたい。ただし、1度で聞き取れることを目指しながら指導を行うことも忘れずにいたい。即興性を高めるためには、教師がモデルを示しながら、生徒が自信をもって取り組めるような繰り返しと意欲をもって取り組めるような課題及び場面設定の工夫をしたい。